



放送大学栃木学習センター

とちの実

Tochinomi

2024
7 月号
No. 133



目 次

巻頭言	p.2
2024年度第2学期からの通信指導について	・・・p.3
2024年度第1学期単位認定試験	・・・p.4～5
次学期の準備	・・・p.6～7
公開講演会のご案内	・・・p.7
特別ゼミのご案内	・・・p.8～10

2024年度学生研修旅行のご案内	・・・p.10
2023年度修士論文・卒業研究発表会のご報告	／教務だより・・・p.11
2023年度第2学期卒業生からの	
アドバイスやメッセージ	・・・p.12～14
キャンパスカレンダー	・・・p.15
学習相談日	・・・p.16

巻頭言

ことばの研究と学習： 私の論文指導とボランティア活動をつなぐもの

宇都宮大学名誉教授 佐々木 一隆



ことばの研究と学習はどちらも楽しい活動である。こうした二つの活動は定年退職後も続けているが、特に学生が学修や研究の総仕上げとして作成する卒論・修論・博論の指導と定年退職前に始めたボランティアとして（外国籍の方に）日本語学習等を応援する活動は、どちらも大変な面はあるものの、私には学ぶことが多く、とても快適であり、固有の醍醐味を感じてきた。両者はことばをめぐる点では共通するが、学位論文指導とボランティアでの学習応援は互いに目的が異なる活動であるのに、どうしてそうした共通性を感じてきたのだろうか。ひとことで言うなら、身近で自明な存在である「ことば」を研究・学習対象に据え、規則体系としての文法を用いてことばを適度に抽象化して捉えながら、ことばの不思議をとともに体験することにより発見の興奮を共有したり、ことばの学習活動において互いに達成感を味わったりすることができる、心地よい共感の場があったからではないかと思う。

ことばの研究は、他の学問と同様、基本的考え方を理解した上で研究を進めていくことが大切である。すなわち、語や句や文などには耳に聞こえない目に見えない（文法が生成する）抽象的な構造があり、そうした構造を使って実際の会話や文章が構成されてコミュニケーションが図られると考えるのが基本の一つである。例えば、相手に質問する場合、英語では疑問詞を文頭において主語と助動詞の倒置も伴う What did you say? のような構文を用いるが、日本語では「(きみ) 何って 言ったの」のように疑問詞を文中に据える構文を用いる。これらの違いは疑問文の形成に関する英語と日本語の文法上の差に起因すると考えられる。なお、日本語では、文脈や状況からわかる場合「きみ」のような文の主語を明示しないことが多く、このため「きみ」に丸括弧が付けてある。すなわち、「何って 言ったの」も可能な文であるが、そのような場合であっても、「何って」の前には明示されない主語「きみ」の構造と意味が存在すると考えるのである。さらに不思議なことに、英語話者と日本語話者の幼児期の母語発達のデータをそれぞれ見てみると、文頭か文中かという差が首尾一貫していることが分かる。そのほかの基本的考え方として、言語どうしを比較するとまず相違に目が向くが、その一方で考察を深めていくとどの言語にも共通する普遍的特性が見えてくることや、ある言語の構造をありのままに記述できたとしても、その事実を説明するには実に多様なアプローチがあるという理論的知識なども必要となる。

最後に、ことばの研究の基本的考え方と成果を、学位論文指導や日本語学習の応援活動にどう活かすかについて私見を述べてみたい。まず、論文を書く学生や日本語学習者と十分な意見交換をして研究テーマや学習内容の希望を確認することが第一であると思う。そして、確認事項を出発点としてその活動を継続することである。その際には、ことばの記述と説明の両方が重要であり、指導・応援する側は多様なアプローチの「引き出し」を用意しておき分かりやすく解説できること、学生や学習者に寄りそう姿勢や尊重の念をもつこと、指導/応援者と学生/学習者の関係は固定的にとらえずに立場が逆転することもあることなどに留意すれば、研究や学習の場が向上するのではないかとと思われる。このような活かし方は、栃木学習センターでの研究や学習の場にも適用できるのではないかとと思う。何らかの参考になれば幸いである。

重要

2024年度第2学期からの通信指導について

原則Web提出となり(郵送提出科目を除く)、問題冊子の送付はありません。

各科目の提出方法・出題形式(択一式・記述式・併用式)については、「2024年度第2学期授業科目案内」に掲載していますので、科目登録の参考にしてください。

Web通信指導による提出

自宅等からインターネットを通じ「Web通信指導システム」にアクセスし、問題閲覧・解答提出を行います(評価対象となる解答は一回目の提出のみです)。

※自宅等にインターネット環境がない、またはパソコン操作が困難等の事情があり、Web通信指導による提出が困難な方は、下記の方法により申請を行うことで、郵送で提出することができます。

郵送による提出

- ・ 10月下旬から11月上旬ごろに大学本部から送付される通信指導問題冊子・マークシート・返送用封筒を用いて、郵送で解答を提出します。
- ・ 対象科目は以下のとおりです。

市民自治の知識と実践('21)	日本美術史の近代とその外部('18)
日本政治思想史('21)	空間と政治('22)
文学批評への招待('18)	現実と向き合う政治理論('22)

「Web通信指導による提出」が困難な方【要申請】

10月1日時点で単位認定試験の受験場所を学習センターにしている場合に限り、10月下旬から11月上旬に問題冊子が送付されます(印刷教材とは別に発送されます)。

単位認定試験の受験場所を学習センターにしていない場合、10月31日(必着)までに「単位認定試験受験場所変更願」(「学生生活の栞」の巻末様式15)を提出した方には、11月上旬に問題冊子が送付されます。

2024年度第1学期単位認定試験

実施方法(Web受験・郵送受験)および出題形式(択一式・記述式・併用式)によって試験期間が異なります。

各科目の試験期間をよく確認してください。

通信指導の合否結果

通信指導の合否結果は、7月1日(月)(予定)に大学本部より送付される「単位認定試験通知(受験票)」を確認してください。

※7月5日(金)になっても到着しない場合は、大学本部学生サポートセンター(TEL:043-276-5111)にご連絡ください。

試験期間

実施方法	出題形式	試験期間(郵送試験は提出期間)
Web受験	択一式科目	2024年7月14日(日)9:00～7月22日(月)17:00
	記述式・併用式科目	2024年7月14日(日)9:00～7月18日(木)24:00
郵送受験	すべての出題形式	2024年7月14日(日)～7月18日(木)《必着》

実施方法(Web受験)

- ・ インターネットを通じ「Web単位認定試験システム」にアクセスし、問題閲覧・解答提出を行います。
- ・ 試験期間中は自宅等からいつでも受験できます。
- ・ 1科目50分の制限時間があります。(一時停止不可、各科目1回のみ受験可能)
- ・ 出題形式には「択一式」「記述式」「択一式と記述式の併用式」があり、各科目の出題形式は「2024年度第1学期授業科目案内」(p.37～p.148)に掲載しています。

郵送受験科目について

- ・ 「正多面体と素数('21)」(記述式)、「日本美術史の近代とその外部('18)」(記述式)、「量子化学('19)」(併用式)、「行政学講説('24)」(併用式)のみ、郵送受験で実施します。
- ・ 7月上旬ごろに大学本部から送付される問題用紙・解答用紙・提出用封筒を用いて、試験期間内に郵送で解答を提出します。(試験時間の制限なし)

試験の結果

試験結果は、8月15日(木)(予定)に大学本部より送付される「成績通知書」またはシステムWAKABA「教務情報→履修成績照会」で確認することができます。

※「成績通知書」の到着を待っていると科目登録に間に合わない可能性があるため、システムWAKABAでの確認をおすすめしています。

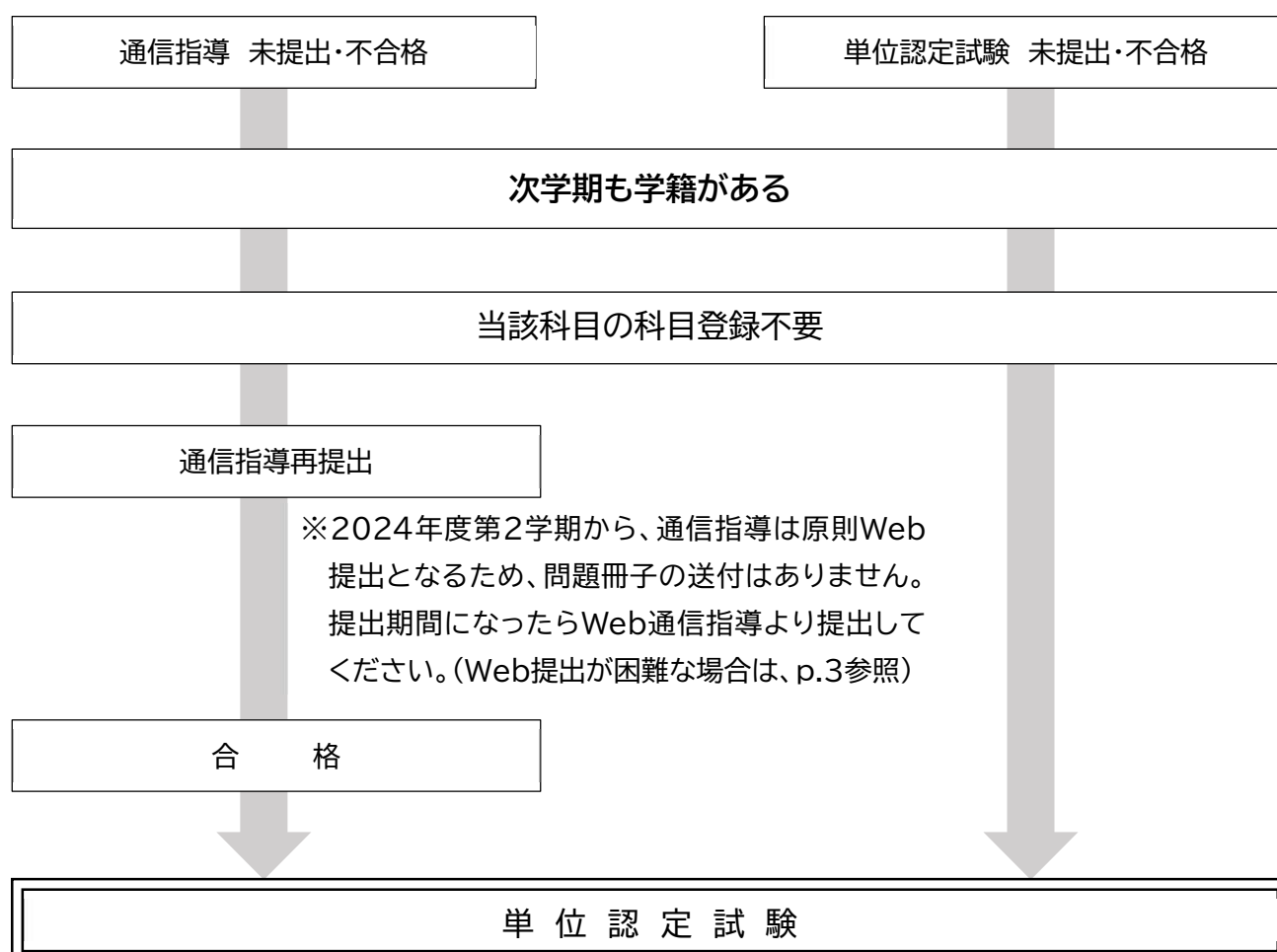
再試験について

2024年度第1学期に新規登録した科目のうち単位修得できなかった科目は、2024年度第2学期に学籍がある場合に限り(休学中を除く)、科目登録をしなくても再試験を受験することができます(再試験に係る授業料などはかかりません)。

※2024年度第1学期で在学期間が終了する方は、再試験を受験するには継続入学の手続きが必要です。

※オンライン授業科目は、通信指導および単位認定試験を行わないため、再試験はありません(一部科目を除く)。単位を修得できなかった場合、再度科目登録が必要です。

詳しくは「学生生活の栞」(教養学部p.74～、大学院p.73～)を参照してください。



次学期の準備(科目登録・継続入学)

次学期も学籍がある方は「科目登録申請」

2024年度第2学期に再試験となる科目は、登録できません(自動的に登録されます)。

●システムWAKABAによる申請 8月15日(木)9:00～8月31日(土)24:00

「教務情報→科目登録申請」から申請してください。

●郵送による申請 8月15日(木)～8月30日(金)大学本部必着

7月中旬に大学本部から送付される「科目登録申請要項」に同封の「科目登録申請票」に必要事項を記入し、大学本部に郵送してください。

※教養学部生で面接授業を登録したい方は、併せて申請を行ってください。

※科目登録申請開始の8日前になっても「科目登録申請要項」等の関係資料が到着しない、あるいは紛失した場合は、大学本部学生サポートセンター(TEL:043-276-5111)にご連絡ください。

今学期で卒業もしくは在学期間満了で次学期に学籍がなく、 引き続き在籍を希望する方は「継続入学」

面接授業を登録する方

システムWAKABAによる申請のみ 8月15日(木)9:00～8月31日(土)24:00

「教務情報→継続入学申請」から申請してください。

※面接授業の登録のみでは入学できません。放送授業またはオンライン授業から1科目以上登録が必要です。

※上記期間外または郵送により出願手続きを行った場合は面接授業の科目登録申請はできません。

面接授業を登録しない方

●システムWAKABAによる申請 【第1回】6月10日(月)9:00～8月31日(土)24:00

【第2回】9月 1日(日)0:00～9月10日(火)17:00

「教務情報→継続入学申請」から申請してください。

●郵送による出願 【第1回】6月10日(月)～8月31日(土)大学本部必着

【第2回】9月 1日(日)～9月10日(火)大学本部必着

資料請求または学習センターに来校し「学生募集要項」を入手して、同封の「出願票」に必要事項を記入し、大学本部に郵送してください。

卒業が見込まれる全科履修生

8月15日(木)(予定)に大学本部より送付される「成績通知書」またはシステムWAKABA「教務情報→履修成績照会」で卒業となるかを確認のうえ、必要な手続きをしてください。

詳しくは「学生生活の栞」p.92～を参照してください。

卒業となる方…再入学を希望する場合は「**継続入学**」

卒業とならない方…次学期も学籍がある場合は「**科目登録申請**」

次学期に学籍がなく、引き続き在籍を希望する場合は「**継続入学**」

公開講演会のご案内

「多様な学びの場をつくる」

「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」は、多様な学びの場をつくり育てることを目的に発足し、2021年8月に「とちぎ自主夜間中学」を、2023年4月に「多様な学び教室」を開設しました。「組織らしくない組織による学校らしくない学校づくり」を目指す活動の背景と固有の意義を理論と実践の両面から考えます。

【日 時】2024年8月3日(土)14:00～16:00

【講 師】宇都宮大学名誉教授

とちぎに夜間中学をつくり育てる会代表

田巻 松雄 氏

【参加方法】会場またはZoom

【申込方法】以下URLまたは2次元バーコードから申し込みフォームに入り、必要事項を入力のうえ、送信ボタンを押してください。

追って、参加方法等をメールでご連絡いたします。

URL:<https://forms.gle/TTaavauLgkvpqf6B8>



コンピュータでのお申し込みが不安な方は、栃木学習センターまでお電話ください。

特別ゼミのご案内

【対 象 者】栃木学習センターに所属する学生(学生種は不問。ただし休学者は除く。)

【注意事項】全ゼミ先着順です。

受講料は無料ですが、材料費など実費がかかる場合があります。

正規の単位としては認められません。

【申込方法】栃木学習センター事務室窓口・電話・FAXのいずれかの方法でお申し込みください。

FAXの場合は氏名・学生番号・希望のゼミ名・ご連絡先を明記してください。

【申込期間】7月5日(金)9:00～各ゼミ開講1週間前まで

①おいしさを科学する

講師:大森 玲子(おおもり れいこ) [専門分野/食物学、食生活学]

食材から加工食品を作る過程で、ちょっとした材料の違いから、風味の異なる食品が生み出されることがあります。この過程への理解を体験的に深めながら、私たちが味わい、おいしいと感じるときに、どのような要因に影響を受けるのか考えます。

日	時	8月4日(日)9:30～16:30	定	員	8名
会	場	宇都宮大学陽東キャンパス11号館1階カフェコモンズ			
持	ち	物	エプロン、マスク、食材費500円程度、上履き(スリッパ)		
備	考	1週間前に、システムWAKABAの登録住所に会場の詳細を送付します。			

②市民の目から見た戦争と平和

講師:清水 奈名子(しみず ななこ) [専門分野/国際関係論]

戦争と平和の問題について研究する国際関係論や国際法学では、外交官や政治家、軍人たちが残した外交文書などの資料をもとに、研究が行われてきました。その一方で、これらの指導者たちが決定して開始される戦争の現場において市民たちがどのような経験をしてきたのか、また市民が戦争によってどのような影響を受けたのかについては、平和研究や歴史学、戦争社会学などの分野で研究が行われてきました。この特別ゼミでは、市民の目からみた戦争と平和を記録した文学作品や映像資料などを使いながら、市民の目からみた戦争と平和の歴史について学んでいきます。

日	時	8月10日(土)9:30～16:30	定	員	10名
会	場	演習室Ⅱ			
持	ち	物	ノートと筆記用具		

③言語学講読:ChomskyとLakoffを読む

講師:佐々木 一隆(ささき かずたか) [専門分野/英語学、言語学]

学修や研究活動で、日本語に加え英語で書かれた文献が正確かつ効率的に読めるようになると、研究の幅が広がり、深さも増すものです。本特別ゼミでは、言語学における生成文法の創始者Noam Chomskyと認知言語学の創設者の一人George Lakoffの文献を皆さんといっしょに原文で読みます。1時間目はChomsky (1985) *Knowledge of Language*を取り上げて、言語知識の解明と言語獲得の説明を主な研究目標とする構造重視の考え方を学びます。2時間目はLakoff and Johnson (1980) *Metaphors We Live By*を取り上げ、日常生活ではmetaphors (メタファー[隠喩]) が頻繁に使われており、こうしたメタファーの解明を旨とする意味機能重視の考え方を学びます。日本語文献も使用します。

日	時	8月24日(土)13:30~16:30	定	員	15名
会	場	演習室 I			
持	ち	物	英語の辞書(冊子体と電子版のどちらも可)		

④地震学の現状と地震に対する備え

講師:伊東 明彦(いとう あきひこ) [専門分野/理科教育学、地球物理学]

日本は世界的にも地震が多い国ですが、日本の地震活動の現状について最先端の地震学ではどこまでわかっているのでしょうか。

地震学の歴史、プレートテクトニクス理論、公表される最新の地震情報、などを概観したうえで、日本で暮らすための心構えなどについて参加者で議論したいと思います。

日	時	8月31日(土)9:30~12:30	定	員	15名
会	場	演習室 II			
持	ち	物	なし		

⑤パソコンOSの裏側を覗いてみる

講師:横田 隆史(よこた たかし) [専門分野/計算機工学]

普段使っているパソコン(PC)が急に調子悪くなったことはないでしょうか。その原因にはパソコンのOS(オペレーティングシステム)が係わっているかもしれません。本特別ゼミでは、我々がPCを使っているときOSが何をしているのかを講義形式で確認したのち、不調の原因について考察していきます。そして各自で持参したPCを用いて実際にそうになっているのか確認していきます。

日	時	8月31日(土)13:30~16:30	定	員	20名
会	場	演習室 I			
持	ち	物	パソコン(Windows PCを推奨) ※事前にWi-Fiの利用申請が必要		

⑥が次ページにあります。

⑥特別支援教育と共生社会－教育的係わり合いからの検討－

講師:岡澤 慎一(おかざわ しんいち) [専門分野/特別支援教育]

ある人において、あるとき、“とまどい”や“つまづき”、“とどこおり”が起こることを“障害”にとらえれば、教育的係わり合いのなかでは、厳しい条件を抱える方のみならず、係わり手もまた障害状況に直面します。こうした障害状況から立ち直るための方略を考え、工夫し、実践することが、教育においては筆者が学生に願うことであり、そうした取り組みから得られた見識を蓄積することが筆者の研究の目指すところでもあります。ここでは、種々の文献や障害のある人との教育的係わり合いの実際に基づきながら、これからの特別支援教育の在り方や共生社会の実相について検討します。

日	時	9月15日(日)9:30～16:30	定	員	10名
会	場	宇都宮大学峰キャンパス8号館B棟4階 特別支援教育第1演習室			
持	ち	物	なし		
備	考	会場には全員で移動しますので、栃木学習センターに9:15までにお越しください。			

2024年度学生研修旅行のご案内(予定)

2024年度も学生研修旅行を開催することが決まりました。

時間や行き先の詳細については、現時点では未定となっておりますが、7月上旬および8月17日(土)に栃木学習センターウェブサイトにて追加情報を公開いたします。

【開催日】2024年9月14日(土)

【行先】東京方面(羽田空港(予約がとれれば格納庫を見学します)、その他都内の屋内施設見学を検討しています)

【対象者】本学の学生 ※休学者を除く。栃木学習センター所属の学生優先。

【募集人数】35名程度(先着順)

【参加費】3,500円程度(見学科、昼食代、保険料含む)

※変動あり。バス料金等は放送大学教育振興会からの補助金による。

【申込方法】以下のいずれかの方法でお申し込みください。

- ・ 栃木学習センターのウェブサイトの申し込みフォームを送信
- ・ 事務室窓口で参加申込書を提出
- ・ 電話で申し込み



【申込期間】8月17日(土)～8月31日(土)

2023年度修士論文・卒業研究発表会のご報告

3月30日(土)に、2023年度修士論文・卒業研究発表会を開催し、4名の方が発表を行いました。
発表会には、客員教員の先生方をはじめ約40名の学生の皆さんが参加され、発表に真剣に耳を傾けました。
発表後は活発な質疑応答が行われ、研究の進め方やWebでの指導、大学院入試の対策やアドバイスなど、大いに参考になったようです。

【卒業研究】津風呂久美子氏

「がん患者のACPに対する外来化学療法センター
看護師の関わり アンケート調査から」



【卒業研究】岩脇秀人氏

「血液透析の^{せんし}穿刺部疼痛に対する貼付用局所麻酔剤
が疼痛緩和に及ぼす影響」



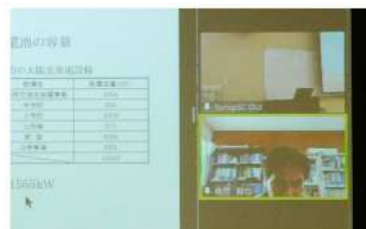
【卒業研究】古川容子氏

「サイコドラマ理論を取り入れた道徳授業を考える」



【修士論文】楡居智也氏

「回帰分析による太陽光発電の発電量予測の
有効性と蓄電池を用いた安定度向上について
ー足利市、前橋市、新潟市においてー」



教務だより

2025年度卒業研究履修について

2025年度卒業研究の履修を希望または検討中の方で、6月8日(土)の「卒業研究履修ガイダンス」に参加されなかった方は、栃木学習センターまでご連絡ください。履修申請に必要な「卒業研究履修の手引き」、「卒業研究履修ガイダンス資料」を送付いたします。

【卒業研究履修申請書提出期間】 8月8日(木)～8月15日(木) 大学本部必着



2023年度第2学期卒業生から アドバイスやメッセージをお寄せいただきました

「卒業にあたり」

大木泰男 ～生活と福祉コース卒業～

私は平成22年度2学期に「生活と福祉」に入学しました。当時は今よりコースが少なかったと思います。当初6年間での卒業を予定していましたが、仕事、他の趣味とで単位の修得が遅れ休学する事にしました。そのまま退学しようかと考えた事もありましたが、それまで学んだ事をムダにしたいくない気持ち、面接授業等のおもしろさも感じていたので4年間の休学後復学しました。休学中も興味のありそうな放送授業は見ていましたし、なにがなんでも卒業だけはするんだという気持ちを持つようにしました。

学べば学ぶ程、自分の知識の無さを痛感するので学び続ける事の必要性を感じています。

来年度あたりから、選科、もしくは科目履修生をしたいと考えています。

休みながらも学び続けていきたいと思っています。



「のんびり学び続ける」

落合功夫 ～自然と環境コース卒業～

退職を機に、生涯学び続けようと放送大学へ入学し、6コースの中から一番興味を引いた「人間と文化」を選びました。当時、再就職していたので退職前と使える自由時間は何ら変わらず、卒業できるか不安になったので、のんびり学習しようと考えていました。

そして入学から9年、今年3月に4コース目を卒業する事が出来ました。気負わずマイペースでやってきた事が良かったのかと思います。今は6コース卒業する事を目標にしています。

入学当時と学習環境は大きく変わりました。授業はテレビ視聴からネット配信へ。単位認定試験は会場受験からWeb受験へ。人との触れ合いがなくなってきたのは寂しい限りですが、学習しやすい環境になってきたと思います。これからは人との触れ合いがある面接授業を出来るだけ受けたいと思います。

今は6コース卒業が目標ですが、その後の生涯学習は何をしていくのか、そろそろ次の学びの目標を考え始めています。



「諦めず頑張る」

永田隆彦 ～人間と文化コース卒業～

私が放送大学に入学したのは、70才になってすぐの9月だったと思います。

翌年の7月に食道ガンを患い、手術して3週間後に栃木学習センターに出向いて1コース目の「社会と福祉」の試験を受け、平成28年3月26日に最初の学位を取得しました。

以後、自然と環境コース、心理と教育コース、社会と産業コース、そして今、令和6年3月23日に人間と文化コースの学位を取得しました。

最後の第6「情報コース」を乗り切れば念願の全ての学位が取れる訳です。

ただ、今は地域の自治会、外部の組織の理事などを複数受けており、大学の勉強を行う時間を持ってなく、悩んだあげく、大学の方はしばらく休学にしようと考えています。

しかし諦めず、時を経てでも再入学を果たすつもりです。

その時はおそらく83才前後になると思われます。後輩の皆様方には、頑張ってください、且つ大学生活を楽しんでいただきたいと思います。



「放送大学で見つけた新たな学びの世界」

福田定夫 ～人間と文化コース卒業～

私は退職を機に放送大学に入学し、最初は選科履修生として2年間学び、その後、全科履修生として人間と文化コースに進みました。

放送大学での学習は、私にとって新たな視野を開く貴重な経験となりました。放送授業、面接授業、オンライン授業、そして充実した学習教材で学んだ歴史、文学、言語、社会、環境、データサイエンスといった異なる視点からの知識は、私の考え方を豊かにし、深めてくれました。特にデータサイエンスの学びは、情報社会における批判的思考の重要性を教えてくれました。データに基づく情報や意見に対しても、その情報源に信頼性があるのか、情報が偏っていないか、情報提供者がどのような立場に立っているのか、そしてその意見がどのような論理に基づいているのかなど、批判的思考を持って受け止めることの重要性を痛感しました。

放送大学は、何よりも自分のペースで学べる良さがあります。自分の関心や目標に応じて、カリキュラムを自由に選ぶことができます。在学生の皆さま、放送大学の良さを活かして、勉学に取り組んでください。学びは自己成長のみならず、社会貢献への力ともなり得ます。私は今後も全科履修生として、放送大学での学びを深めていきます。皆さまと共に、学び続けたいと思います。



「夢に向かって挑戦することの大切さ」 前川 博亮 ～人間と文化コース卒業～

この度、放送大学教養学部教養学科「人間と文化コース」を卒業しました。2度目の卒業となります。栃木学習センター所長をはじめ、職員のみなさまにはたくさんサポートして頂きました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

2度目の学位記を受け取りましたが、ただただ悔しさだけが残る卒業となってしまいました。体調を崩してしまい、取り組んでいた卒業研究を完成させることができなかったからです。私の心の中はカラカラに枯れてしまい、涙も出ませんでした。

ある日、歌手の松田聖子さんが某大学の法学部通信教育課程をご卒業されたことをニュースで知りました。今も歌手として活躍され、4年間で法学部通信教育課程を卒業されたこと。本当に素晴らしい努力家であり、何歳になっても挑戦し続ける姿勢に頭が下がりました。私の消えかけていた学業のロウソクに再び火をともししてくれたのが松田聖子さんであり、夢に向かって挑戦することの大切さを教えてくれたのが松田聖子さんでした。

放送大学の「生活と福祉コース」でもう一度、初心に戻り学業に励もうと思います。

必要なことはただ一つ、できると信じることだ。Anthony Robbins（アンソニー・ロビンズ）

これからも自分の夢に向かって挑戦し続けます。夢が叶うまで、何度でも何度でも挑戦し続けたいと思います。

～学生のみなさんへお伝えしたいこと～

学生のみなさんが挑戦し続ける夢を応援します。これからも放送大学で共に学びましょう！



「コロナ禍でのライブWeb授業との出会い」 匿名希望 ～自然と環境コース卒業～

今回で2回目の卒業となります。2回目の在学期間で思い出深かったことは、ライブWeb授業の開始でした。心強かったのは、リアルタイムの授業で先生に質問ができ、かつほかの学生の意見を聴ける環境と感染症対策の両立が可能な点です。持病があり感染症対策が不可欠な状況の中でも、ライブWeb授業によって新しいことを学ぶ楽しさ・人と学ぶ楽しさを実感できたことは私の活力となりました。本部と各学習センターの職員の皆様、教員の皆様、新型コロナの登場で大変な状況にあった中でも、多様な学生のためにライブWeb授業を始めていただきましてありがとうございました。3回目の在学期間にも受講させていただきますので、よろしくお願いいたします。



キャンパスカレンダー

…閉所日 □…面接授業 □…試験

※変更になる場合があります。

○…特別ゼミ ★…行事

7月

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

7月の予定

- 6・7日 面接授業「体験で学ぶ生活環境づくりの基礎」
- 13・14日 面接授業「日光戦場ヶ原と周辺の植生動態」
- 14～22日 単位認定試験実施期間

8月

月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3 ★	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8月の予定

- 3日 公開講演会「多様な学びの場をつくる」
- 4日 特別ゼミ「おいしさを科学する」
- 8日 2025年度卒業研究履修申請〈～15日〉
- 10日 特別ゼミ「市民の目から見た戦争と平和」
- 15日 夏季集中(司書教諭)通信指導提出期限
- 2025年度大学院全科生出願受付〈～26日〉
- 2024年度第2学期科目登録申請期間(郵送)〈～30日〉
- 2024年度第2学期科目登録申請期間(Web)〈～31日〉
- 24日 特別ゼミ「言語学講読：ChomskyとLakoffを読む」
- 31日 特別ゼミ「地震学の現状と地震に対する備え」
- 特別ゼミ「パソコンOSの裏側を覗いてみる」

9月

月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14 ★	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29 ★
30						

9月の予定

- 1日 2024年度第2学期出願受付開始(第2回)〈～10日〉
- 14日 学生研修旅行
- 15日 特別ゼミ「特別支援教育と共生社会
－教育的係わり合いからの検討－」
- 29日 2024年度第1学期「学位記授与式」
- 2024年度第2学期「入学者の集い」

学習相談日(7月～9月)

主に土曜日(13:00～17:00)に学習相談日を設けています。ご希望の方は「学習相談申込書」にご記入のうえ、事前に事務室までお申し込みください。

※専門分野とは各教員の核となる分野であり、これよりも広い分野の学習相談に応じることができます。

※先生の都合により日程が変更になる場合がありますのでご了承ください。

教員名／現職	専門分野	相談日		
大森 玲子 宇都宮大学教授	食物学 食生活学	7/13	8/24	9/14
岡澤 慎一 宇都宮大学教授	特別支援教育	7/27	8/31	9/28
佐々木 一隆 宇都宮大学名誉教授	英語学 言語学	7/13	8/17	9/14
清水 奈名子 宇都宮大学教授	国際関係論	7/6	8/3	9/28
下郷 大輔 作新学院大学講師	犯罪心理学 家族心理学	7/20	8/3	9/28
平井 英明 宇都宮大学教授	土壌学	7/27	8/31	9/14
横田 隆史 宇都宮大学教授	計算機工学	7/6	8/3	9/7
渡邊 信一 宇都宮大学准教授	工学教育 感性工学	7/6	8/3	9/7
伊東 明彦 栃木学習センター所長	理科教育学 地球物理学	随時対応		

放送大学栃木学習センター

〒321-0943 宇都宮市峰町350(宇都宮大学峰キャンパス内)

TEL:028-632-0572 FAX:028-632-0570 E-mail:tochigi-sc@ouj.ac.jp

HP: <https://www.sc.ouj.ac.jp/center/tochigi/>

【開所時間】 9:00～17:30 (窓口・電話対応は9:00～12:00・13:00～17:30)

【閉所日】 月曜・祝日休

「とちの実 第133号」は6月現在で栃木学習センターに在籍している学生にお届けしています。
次号は10月号発行予定です。(「とちの実」は年4回発行)